

この衛星動画は、2026 年台風 9 号を気象衛星の赤外画像で捉えたものです。赤外画像は雲頂の温度を色分けして表示しており、白く明るい部分ほど雲頂高度が高く、積乱雲が強く発達していることを示しています。台風を中心を取り巻く円形の白い雲域は「アイウォール（眼の壁）」と呼ばれ、猛烈な雨と暴風をもたらす最も危険な領域です。その中心には黒っぽい円形の「目」が極めて明瞭に現れており、台風が成熟した非常に強い勢力に達していることがひと目で分かります。これほど輪郭のはっきりした目は、中心付近で空気が下降して雲が少なくなり、その周囲では激しい上昇気流が連続していることを示す、強い台風特有の構造です。

台風 9 号は、海面水温 30℃前後という非常に暖かい海域を進み、海から大量の水蒸気と熱エネルギーの供給を受け続けました。さらに、上空の風が弱く、積乱雲が壊されにくい環境にあったため、中心気圧が急速に低下して「急速発達」を起こし、大型で非常に強い勢力へと成長しました。動画では、目の周囲から何本もの渦巻き状の雲帯が外側へ伸びる様子も確認でき、巨大な大気の渦が組織的に維持されていることが分かります。中心では最大風速 50m/s、最大瞬間風速 70m/s に達し、海上では猛烈な高波や高潮を引き起こすだけのエネルギーを蓄えていました。

赤外画像は、夜間でも台風の内部構造を詳しく観測できるため、勢力の変化や発達過程を知るうえで欠かせない観測手段です。この動画では、ほぼ円形にまとまった雲域と鮮明な目から、台風が非常に安定した構造を保っていることが読み取れます。一般に、目がくっきり見える台風ほど勢力が強い傾向があり、その後も進路上では暴風や豪雨への厳重な警戒が必要となります。人工衛星は地球上空約 3 万 6 千 km から 24 時間連続で観測を続けており、このような映像は台風の監視や進路予報、防災情報の提供に大きく役立っています。

(2026 年 7 月上旬／気象庁衛星動画／画像)

